

令和3年度 第11回ACP作業部会議事録

日 時 令和4年3月10日(木)

午後2時～午後3時

場 所 安城市医師会館 2階 大会議室

部会長より挨拶

マニュアルが予定通り完成し、研修会も多くの方に参加頂き良い評価を頂いた。ご協力感謝する。マニュアル完成がゴールではなく、今後患者の意思決定を地域の中で進めていきたい。病院看護部長と話す中で病院でもACPを進めたいと言っていたが、地域と協力し実践していかないと難しい。地域がACPを理解し、よりよい支援のために患者の意思をつないで病院にボトムアップしていく事が出来ればよいと思う。

事務局より連絡

本日欠席は地域包括支援センターより連絡あり。

ACP マニュアル研修会は好評であった。

本日の次第に従い、グループワーク後発表。来年度の普及啓発に向けて意見交換。

議題

1. ACP マニュアル研修会・作業部会の振り返り

【ACP マニュアル研修会について】

1 グループ

- 発表はスムーズにできた。ACP マニュアル研修会は数回あると良かった。
- オンデマンド配信等当日聞けない人への工夫が出来ると良かった。
- 研修会の内容は分かりやすいと評価されており良かった。
- 研修会参加者は病院では課長が多く、スタッフに見てもらいたかった。

2 グループ

- 研修会は良いものになった
- 新人教育にも活用したい
- 作成したマニュアルやわたしノートの活用方法に対する周知が必要

【作業部会の振り返りについて】

1 グループ

- 時間配分が悪く、内容を精査できる余裕が無かった。今後実践を経てバージョン

ンアップしていきたい。

2 グループ

- 勉強になった。
- ACP を考えるきっかけとなり、やりがいがあった。
- 部会に参加することであらためて ACP を考え直すことが出来、多職種との連携がより重要だと思った。
- 医師として患者の思いを支援することの重要性を学んだ

2. 来年度、ACP 推進、周知啓発について

1 グループ

- ACP を行う中で、誰が何を担当するのかなど聞き方のシステムが必要ではないか。医師は疾患の状態について話し、MSW や看護師は患者の思いを聞き、療養上のアドバイスをする等意思決定を行う人は必ずしも医師でなくていいのではないか？
- 意思決定はその時々で変わりうることを関わるスタッフが当たり前と感じ、わたしノートを更新していく
- 地域から ACP について声をあげられるような環境づくり。(市民への啓発を含めて)
- 在宅の様子を病院に伝えられる仕組みづくり(サルビー見守りネットの活用)
- 安城市全体で ACP を考える環境づくり (小学生に対するガン教育など世代を超えた啓発活動)

2 グループ

- 一般の方に広めていきたい。訪問看護の立場だから話せること等地域に向けて取り組む。訪問看護ネットワークで広めていきたい。
- 事業所によって温度差があると感じた。
- Dr として ACP に関わる人は少ない。病気を持つ人として捉えてしまう。関心を持っていただける様啓発が必要。医学的なバックアップは惜しまない。

3. 安城市全体で取り組む事

- 次年度市の子算で出版物を作成できないか？
- ケアマネージャーが関わる段階で「わたしノート」をすぐに使用できるように教育する
- 市民全体に「わたしノート」を理解して頂くよう勉強会などを企画する
- デイネット部会でもデイ利用中の看取り期の方の対応に追われる場合がある。スタッフにも教育が必要
- 他施設で情報共有が出来る様支援体制を整える(ツールの活用)

4. 事務連絡

- ACP 作業部会は本日にて一時中断とする。皆様本当にご協力ありがとうございました。また来年度の市民フォーラムでは、ACP 推進のため事例を通してシンポジウム等行い普及啓発を行いたい。ACP 作業部会の皆様に各部署で実践を積み重ねていただき、市民フォーラムにご協力をお願いします。
- 市民フォーラム事前打ち合わせ会日程
令和4年6月13日(月)午後2時から市役所さくら庁舎35会議室にて開催
- もしばなゲームのカード10セット追加(現在15セットあり)
貸出窓口は高齢福祉課地域支援係